

2024年1月26日 ESRI-政策フォーラム
「新春景気懇談会：今年の世界経済」

2024年欧州経済の見通し

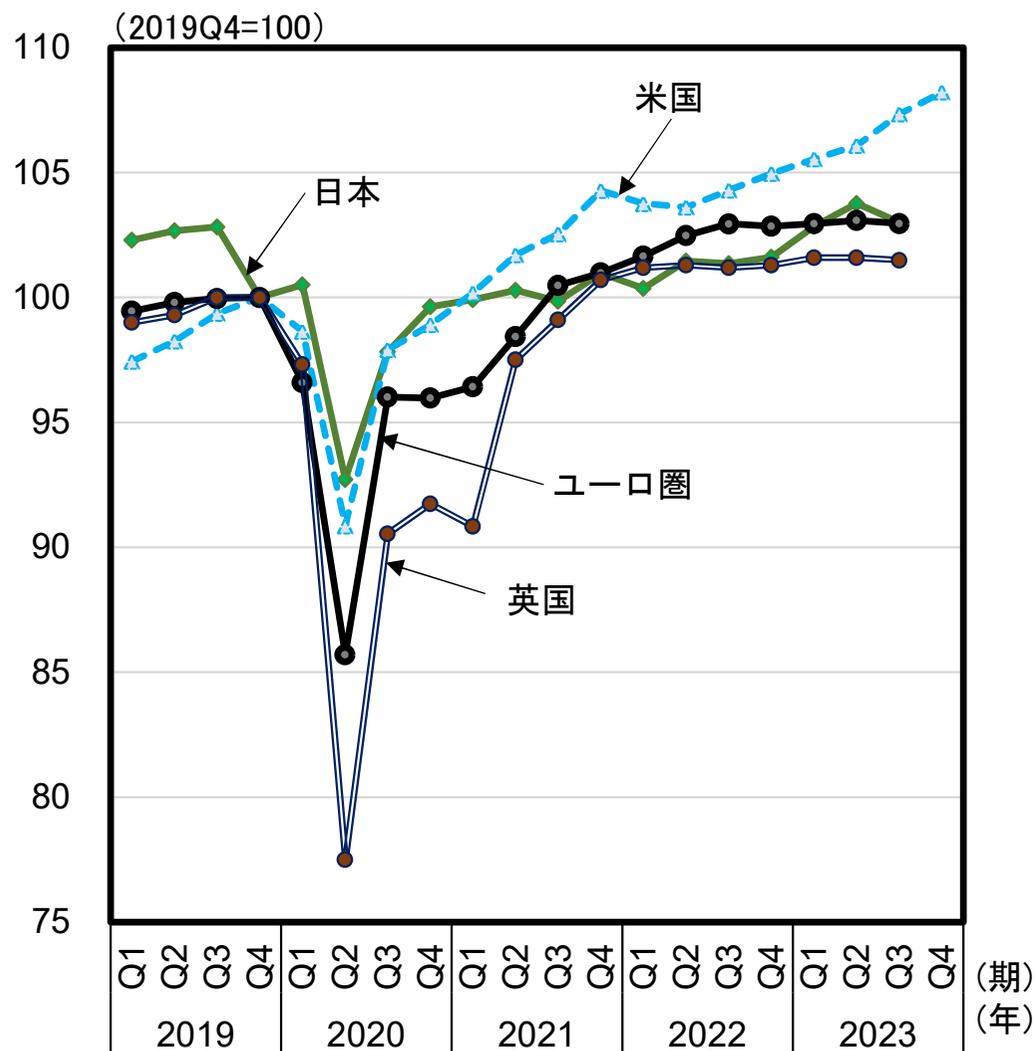
～停滞から脱却できるか～

欧州連合日本政府代表部
小嶋 秀人

欧州経済の現況①

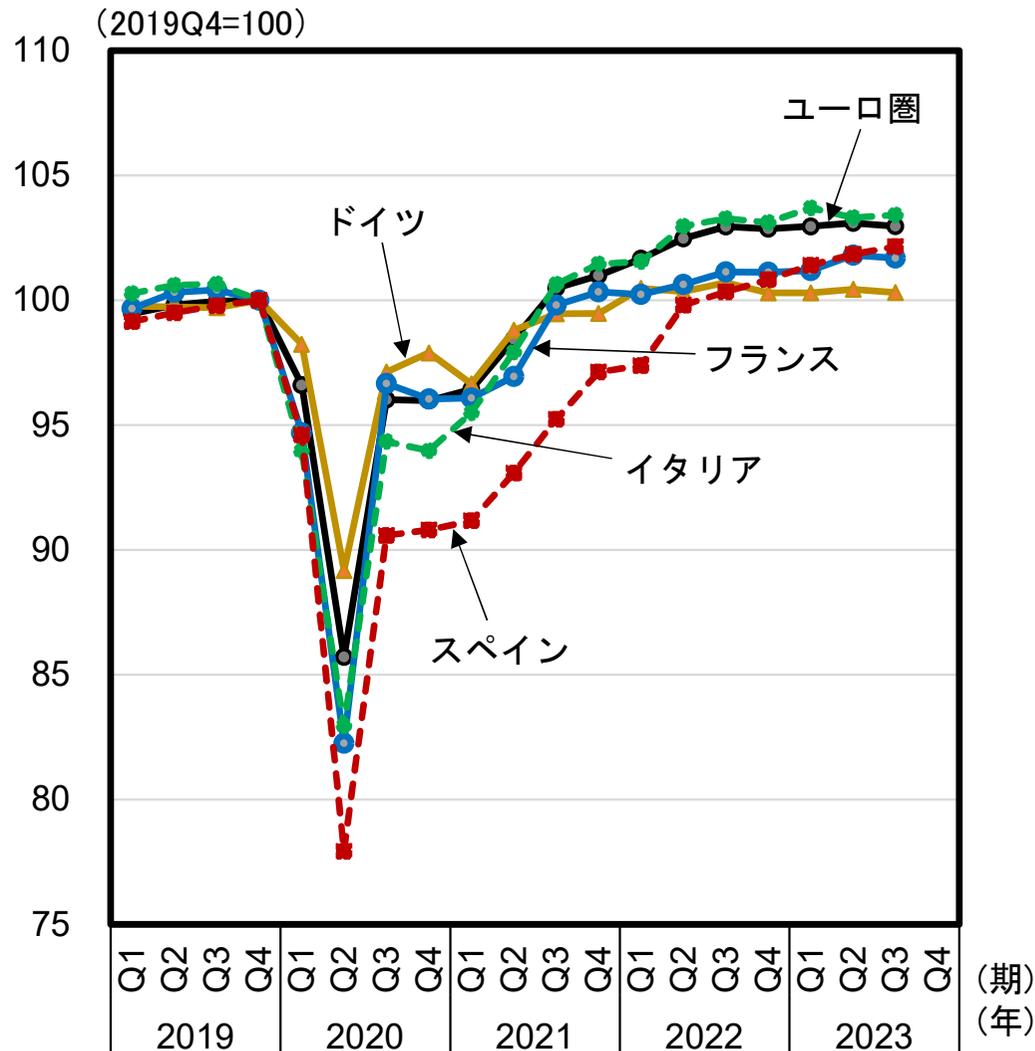
- ユーロ圏の実質GDPは、2020年のパンデミック時に大きく落ち込んだものの、2021年後半には危機前の水準に回復した。2022年後半以降は、停滞が続き水準はほぼ横ばいとなっている。
- 国別にみると、ドイツはパンデミックによる落ち込みが相対的に小さかった一方、足下では弱さが目立つ。スペインはパンデミックで大きく落ち込み回復も遅れた一方、足下では持ち直しが続いている。

主な国・地域の実質GDP



(備考) 内閣府、Eurostat、米BEA、英ONSより作成。

ユーロ圏・主要国の実質GDP

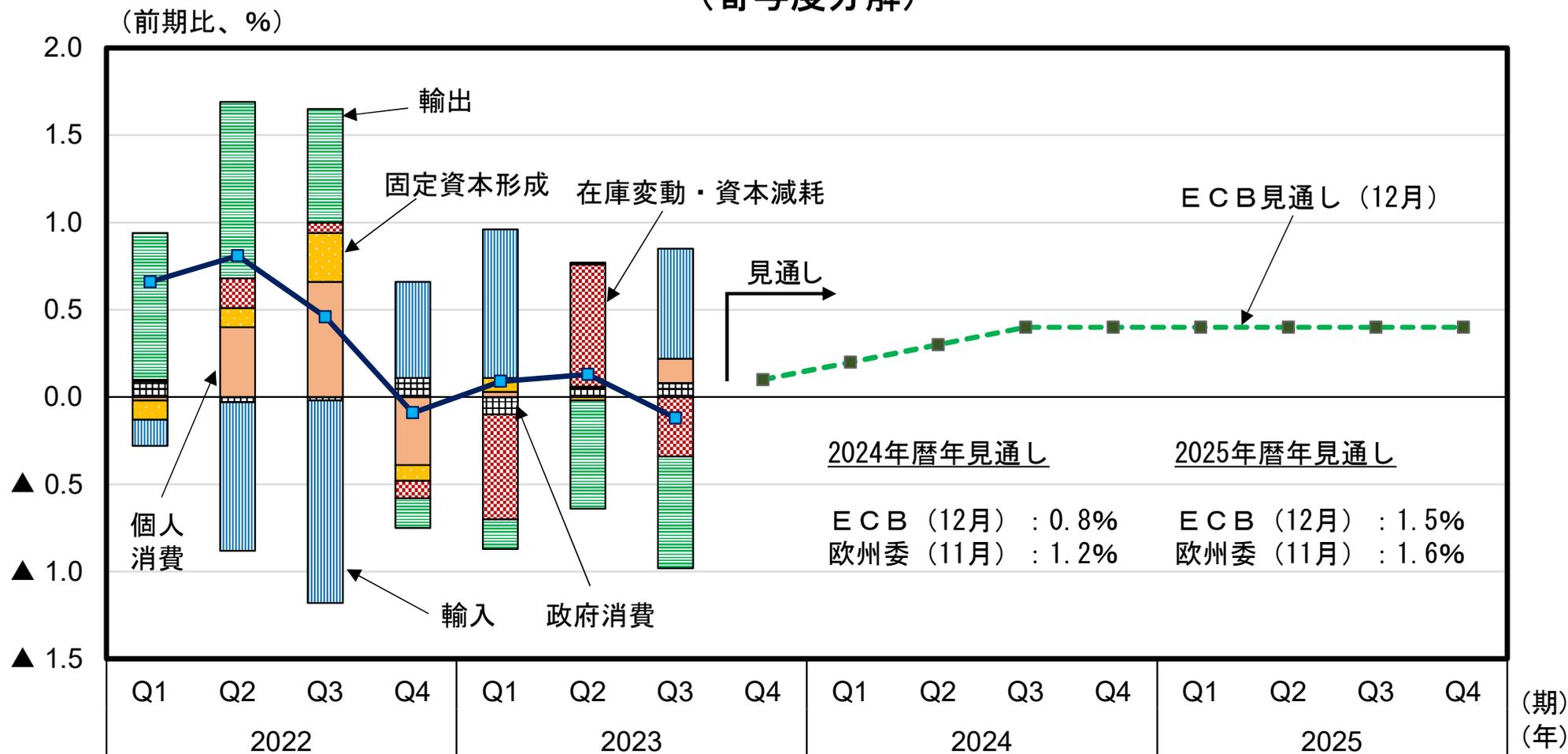


(備考) Eurostatデータより作成。

欧州経済の現況②

- ユーロ圏の実質GDP成長率は2022年10－12月期にマイナスとなった後、ゼロ近傍で低迷。需要別にみると、2023年に入り個人消費はほぼ横ばいだが、輸出が4四半期続けてマイナス寄与。
- 2024年には成長率の緩やかな上昇が見込まれているものの、内外の下振れリスクに留意が必要。

ユーロ圏：実質GDP成長率（実績と見通し）
（寄与度分解）

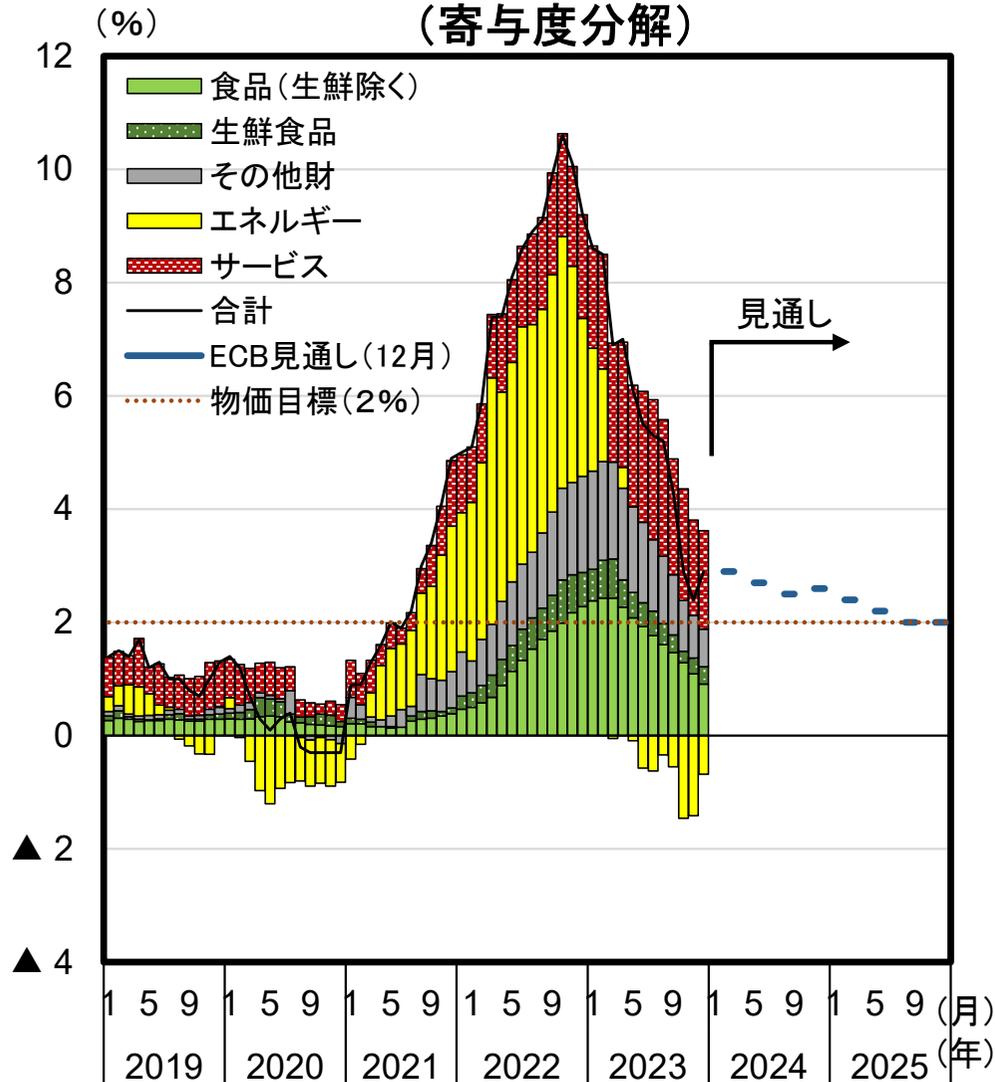


（備考）Eurostatデータ、ECB、欧州委員会より作成。

物価

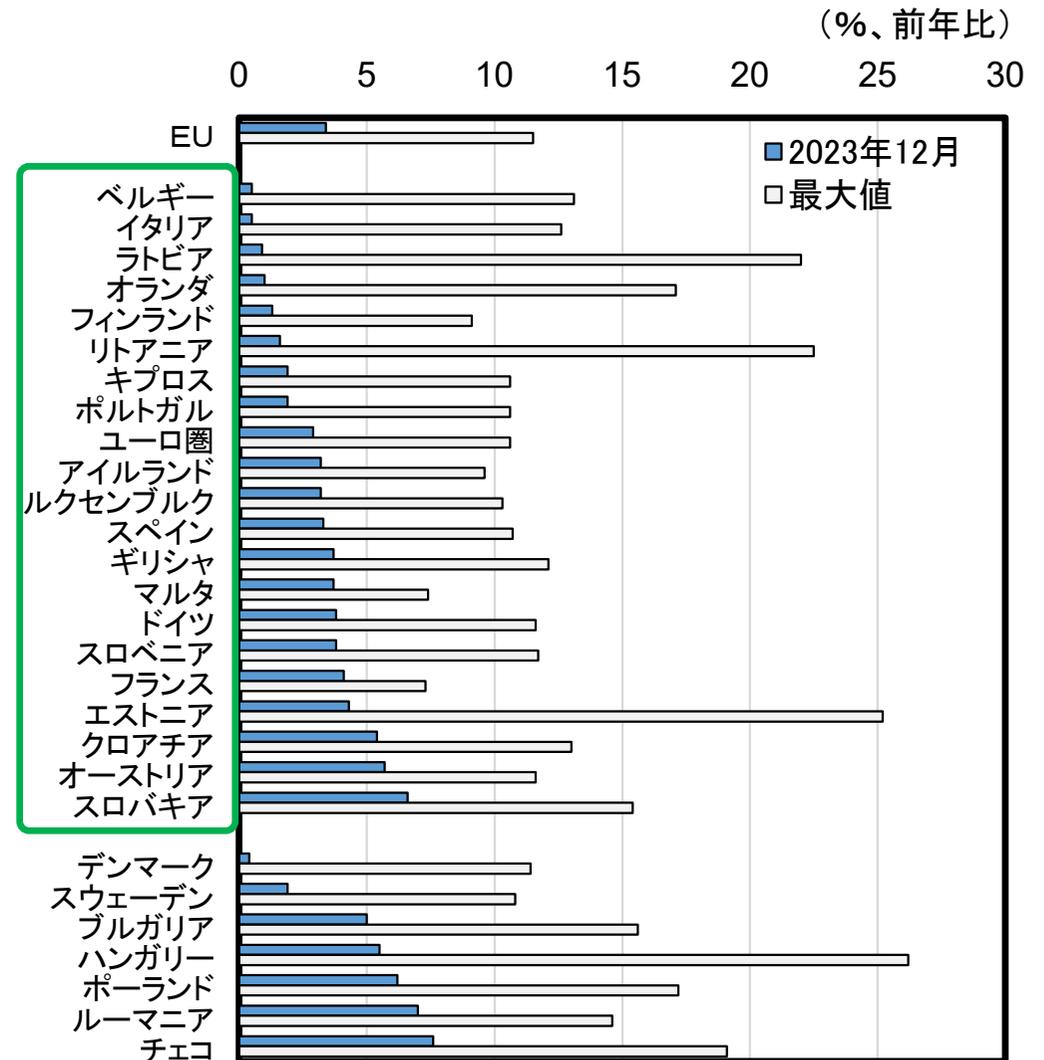
- ユーロ圏の消費者物価上昇率は、2021年後半以降、エネルギーにけん引される形で上昇。2022年2月のロシアによるウクライナ侵略の影響で拍車がかかり、2022年秋のピーク時には10%超に。
- この1年は低下傾向が続いているものの、2%の物価目標実現までには時間を要する見込み。また、域内各国でのばらつきも見られ、今後の動向には留意が必要。

ユーロ圏：消費者物価上昇率 (寄与度分解)



(備考) Eurostatデータ、ECBより作成。

EU加盟各国の消費者物価上昇率

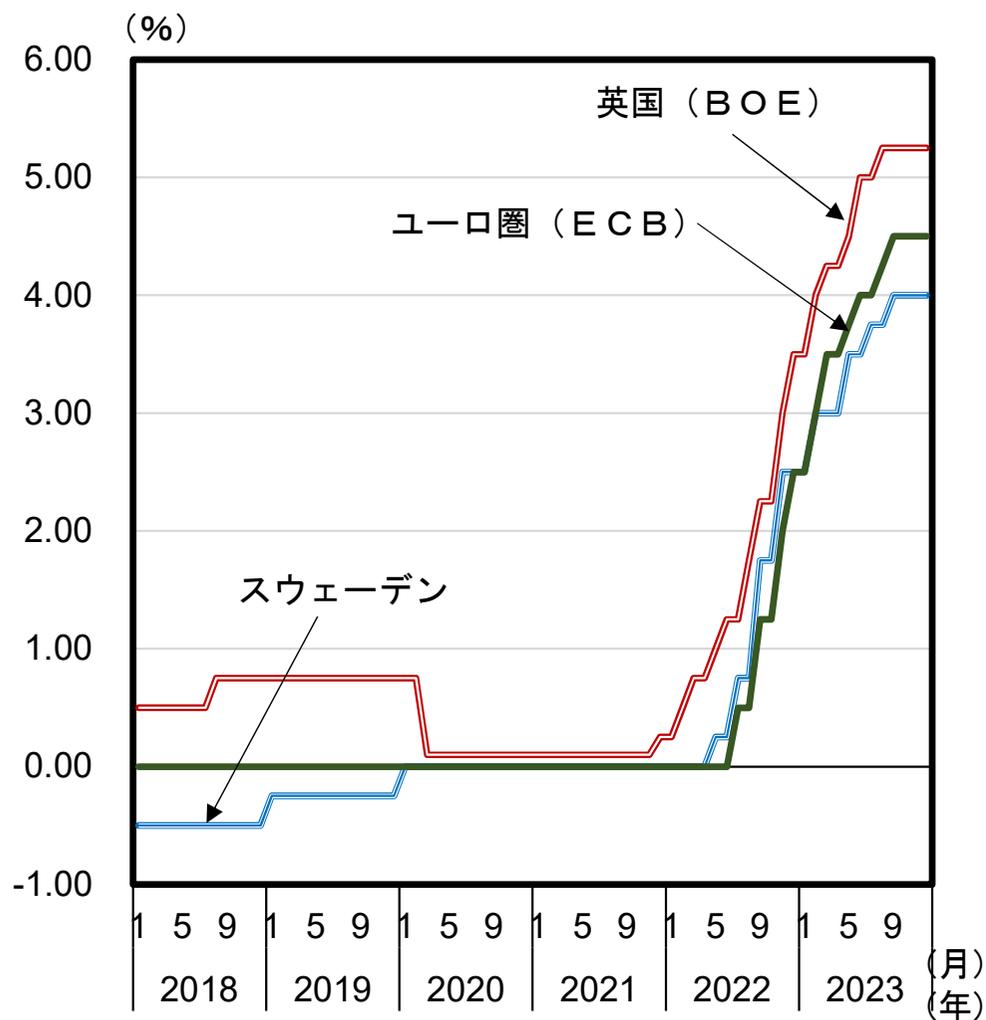


(備考) Eurostatデータより作成。緑枠内はユーロ圏。

金融政策・住宅市場

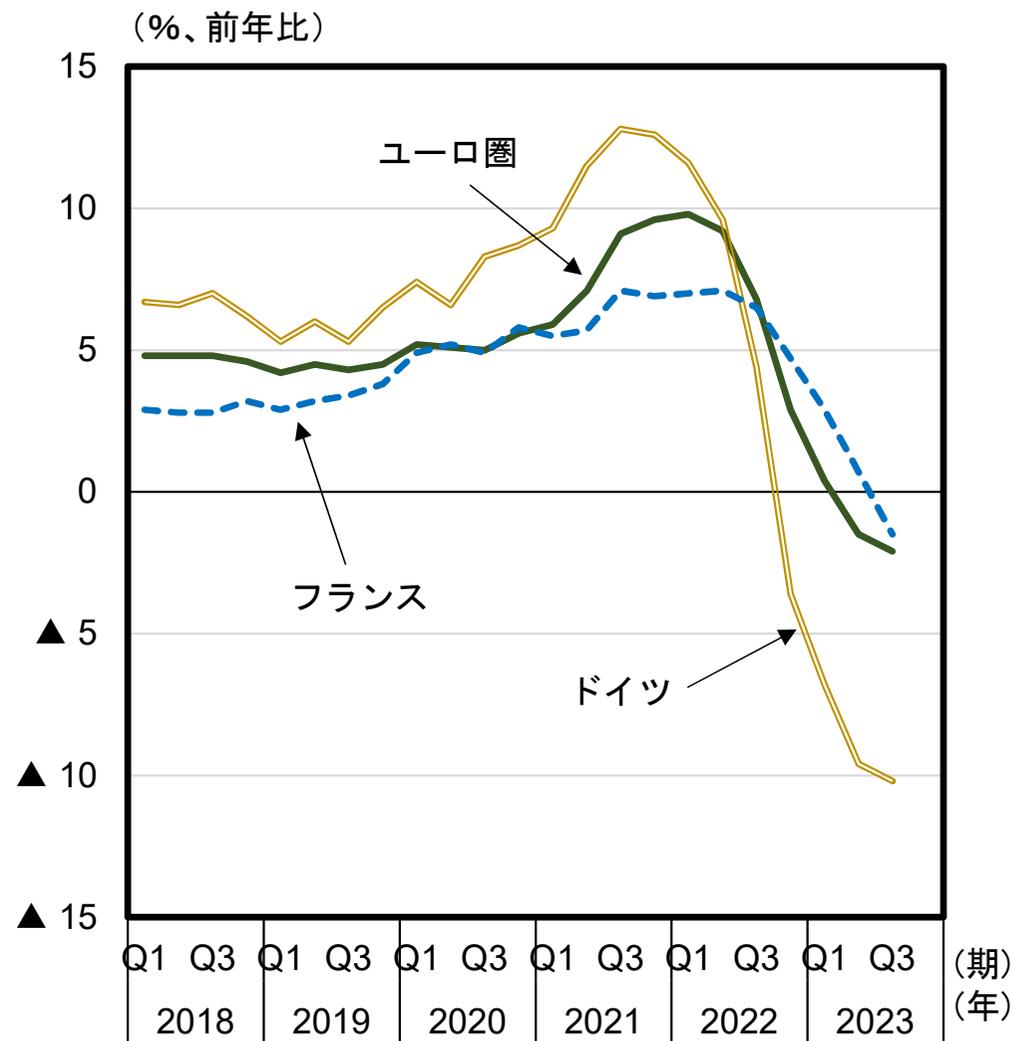
- 2021年後半以降の物価上昇に伴い、各中央銀行は政策金利を上げてきた。今後は利下げ局面が見込まれているものの、金融政策の動向とその影響に留意が必要。
- 金利の影響を受けやすい住宅市場では、2022年前半までその価格は安定的に上昇が続いてきたが、2022年後半以降、利上げの影響もあり上昇率は低下、2023年に入り前年比マイナスに転じている。

政策金利



(備考) BIS、ECB、BOE、スウェーデン国立銀行より作成。

住宅価格



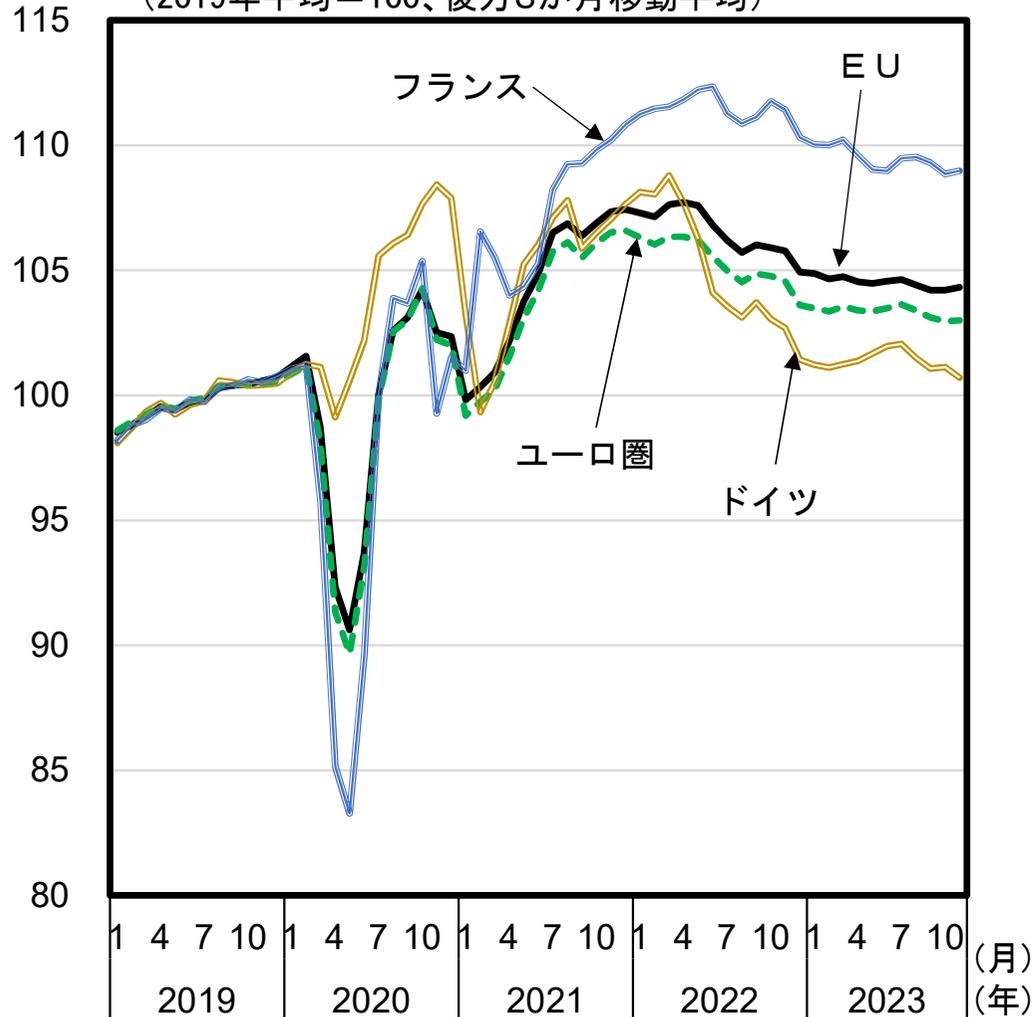
(備考) Eurostatデータより作成。

個人消費

- ❑ 実質小売売上は2022年に入り、物価上昇による実質所得低下を通じ低下傾向にある。特に、ドイツでは低下幅が大きくなっている。
- ❑ 消費者マインドは2022年秋の消費者物価上昇率のピーク時には大幅に悪化し、2020年のパンデミック時を下回る水準となった。足下では持ち直しつつあるものの、低水準が続いている。

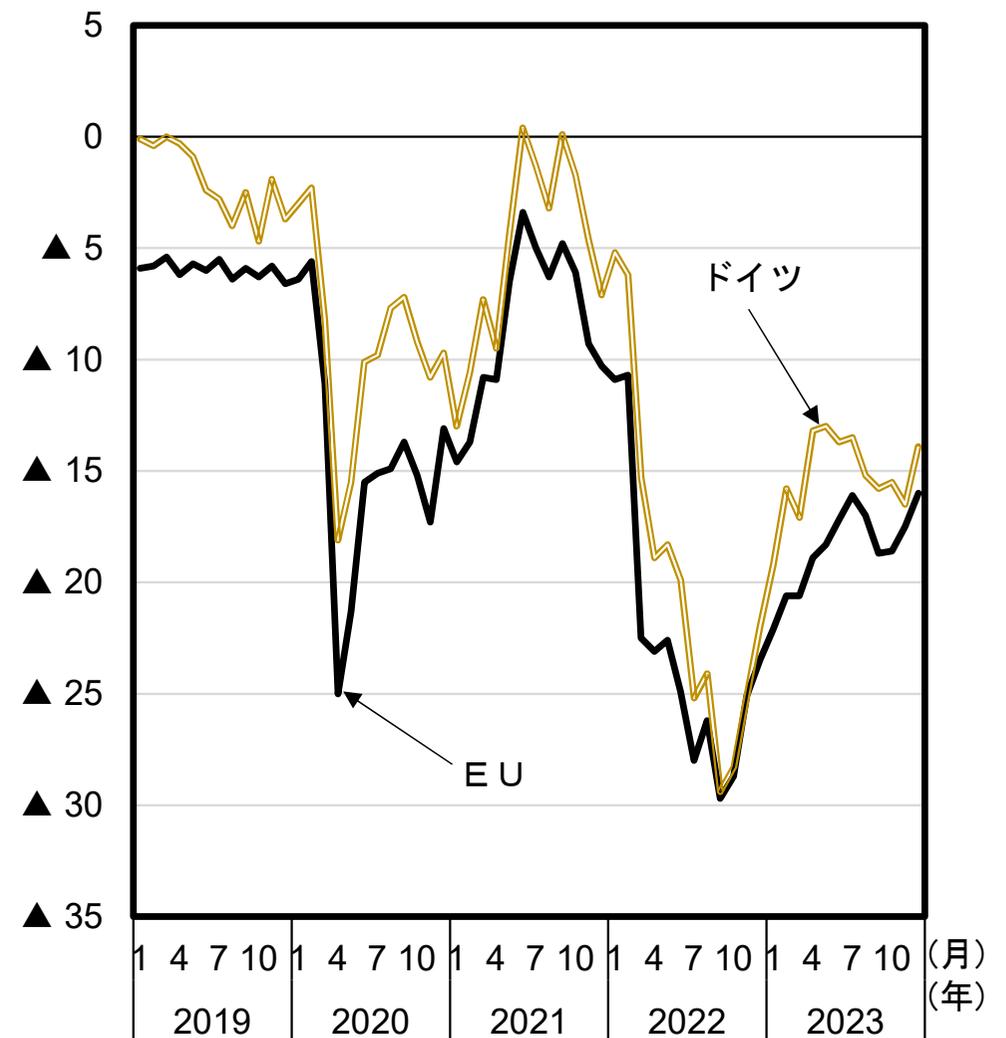
実質小売売上(自動車除く)

(2019年平均=100、後方3か月移動平均)



(備考) Eurostatデータより作成。

消費者信頼感指数

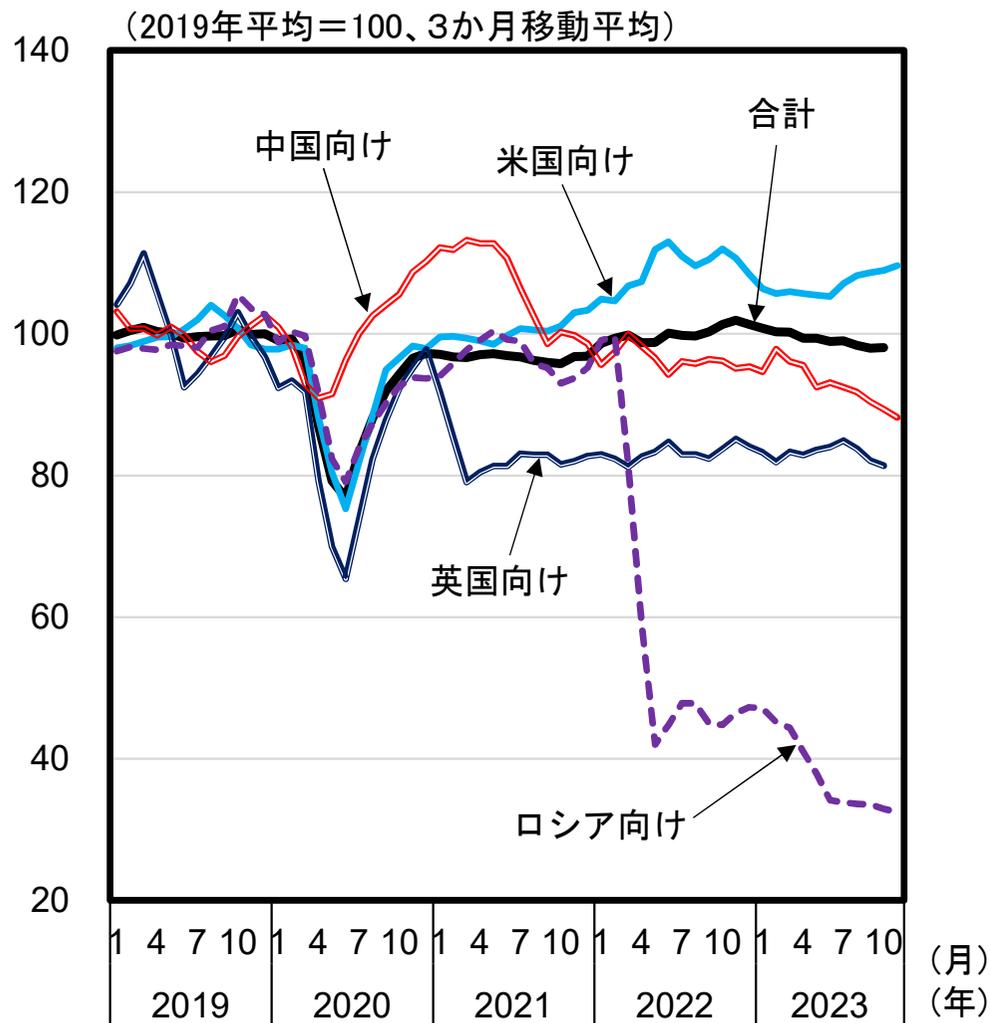


(備考) 欧州委員会データより作成。

輸出・生産

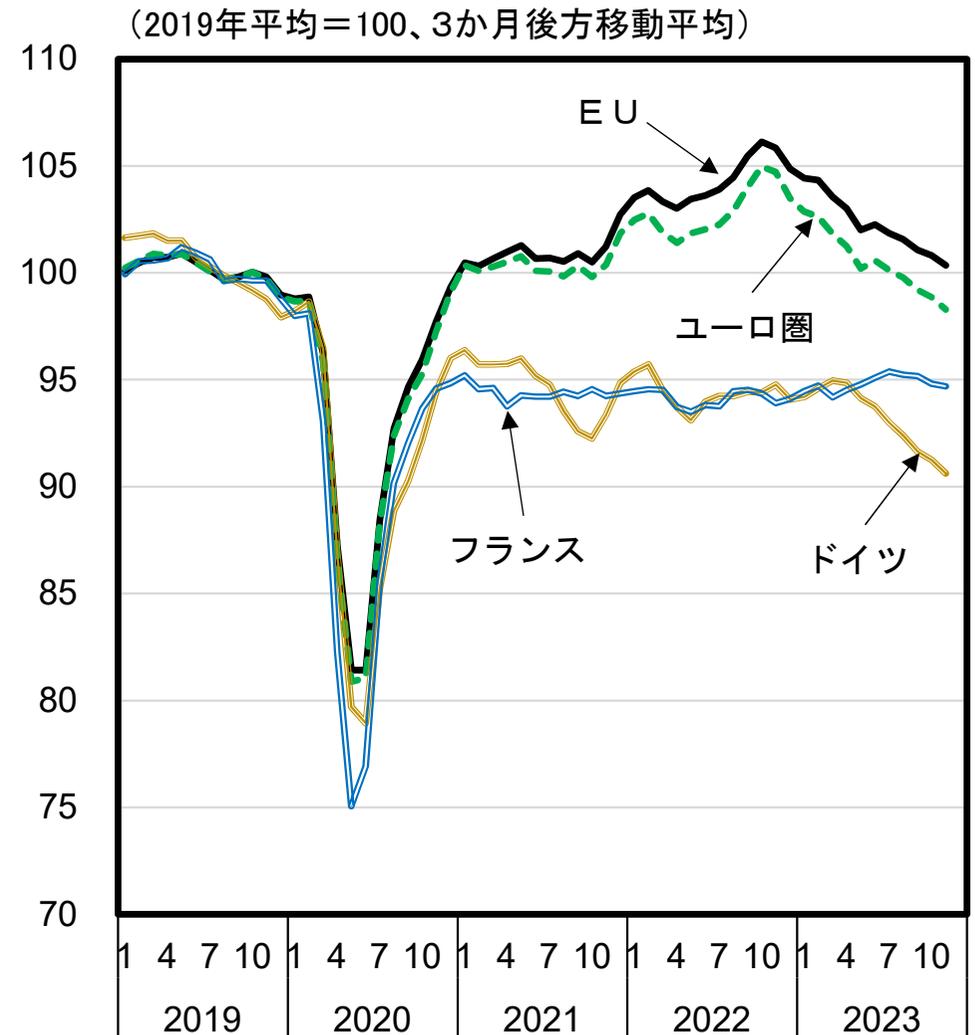
- ❑ EU域外への輸出はこのところ減少している。域外輸出の1割程度を占める中国向け輸出は2021年から減少傾向が続いている。
- ❑ 鉍工業生産も減少が続いている。ドイツでは2023年に大きく減少。フランスでもパンデミック前の水準を下回って推移。

EU:域外への輸出数量



(備考) Eurostatデータより作成。

鉍工業生産(数量)

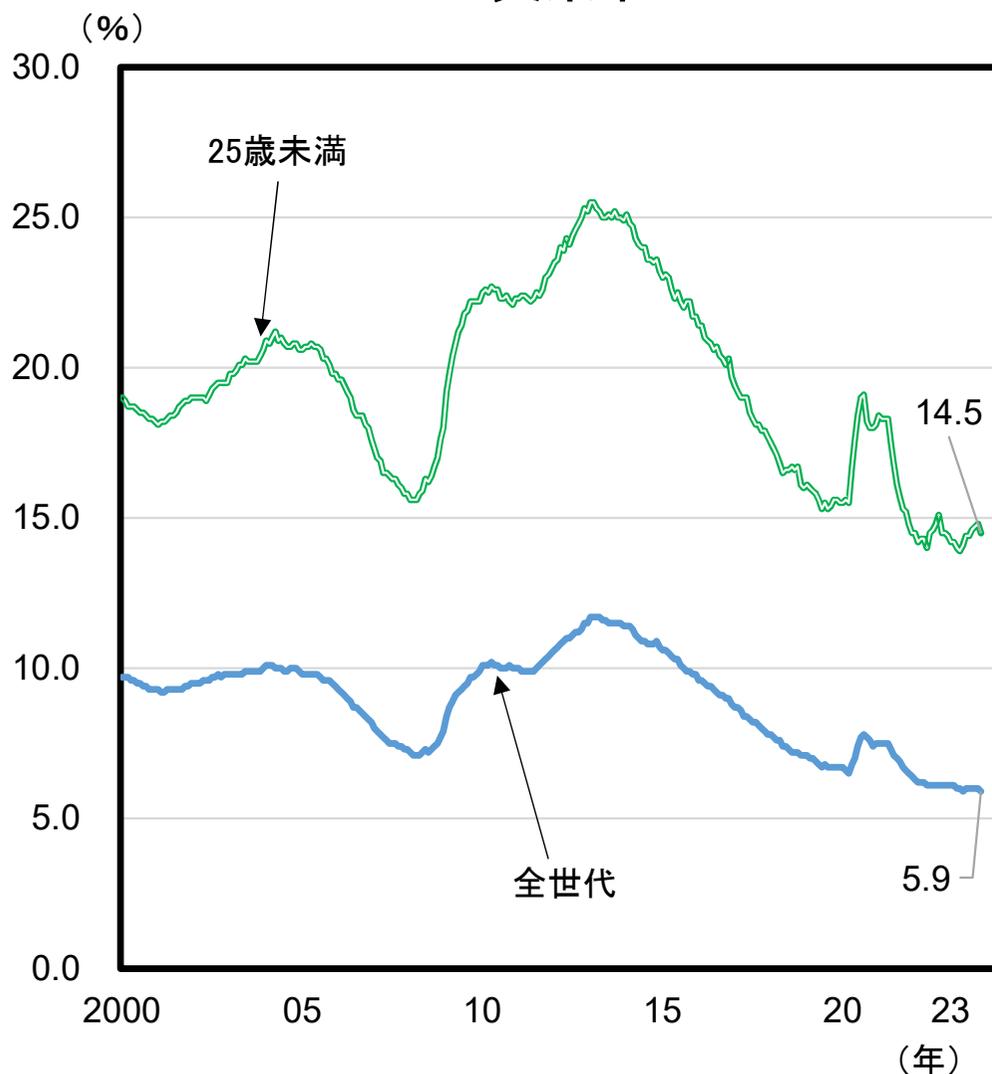


(備考) Eurostatデータより作成。

労働市場

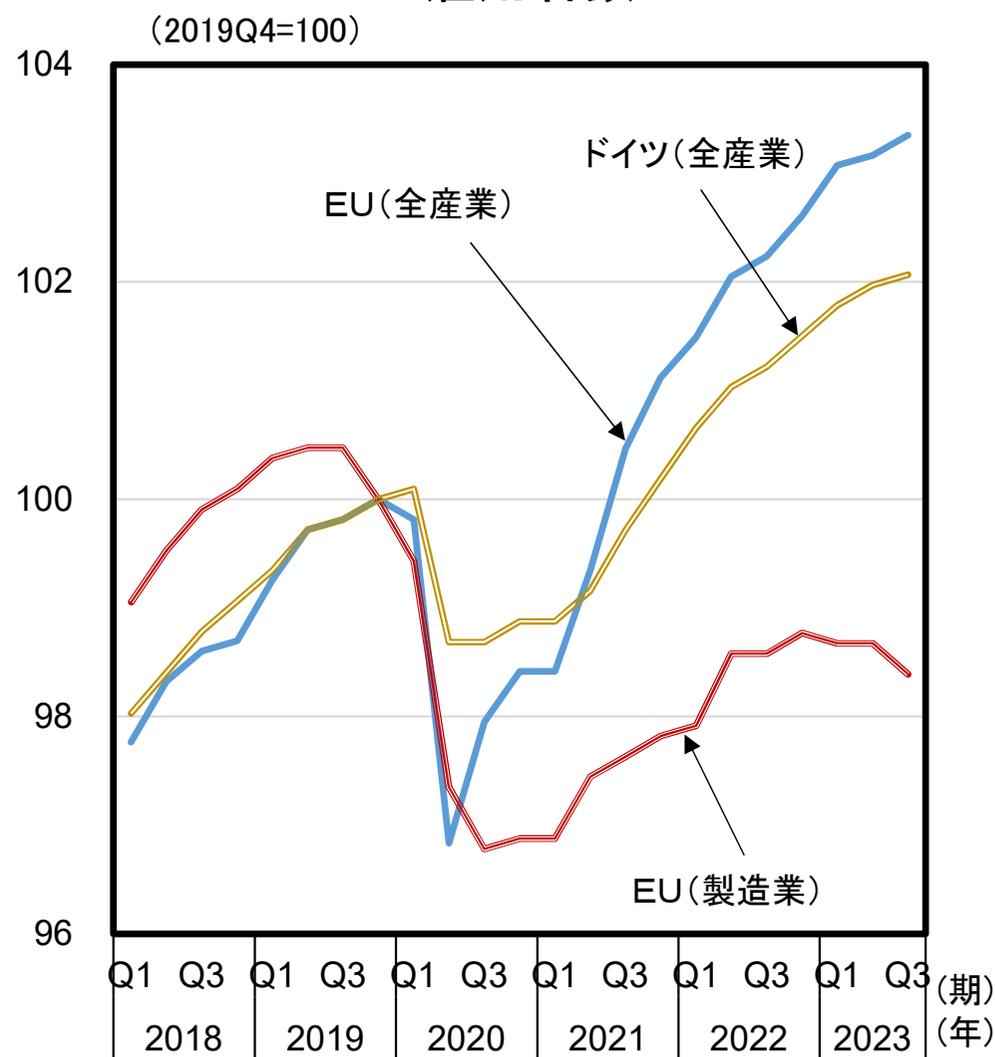
- EUにおける失業率は全世代、若年者(25歳未満)ともに歴史的低水準で推移している。
- 実質GDP水準の停滞が続く中にも、雇用者数は伸びており、堅調さを示す。他方、製造業の雇用はパンデミック前の水準を下回って推移。

EU:失業率



(備考) Eurostatデータより作成。

雇用者数

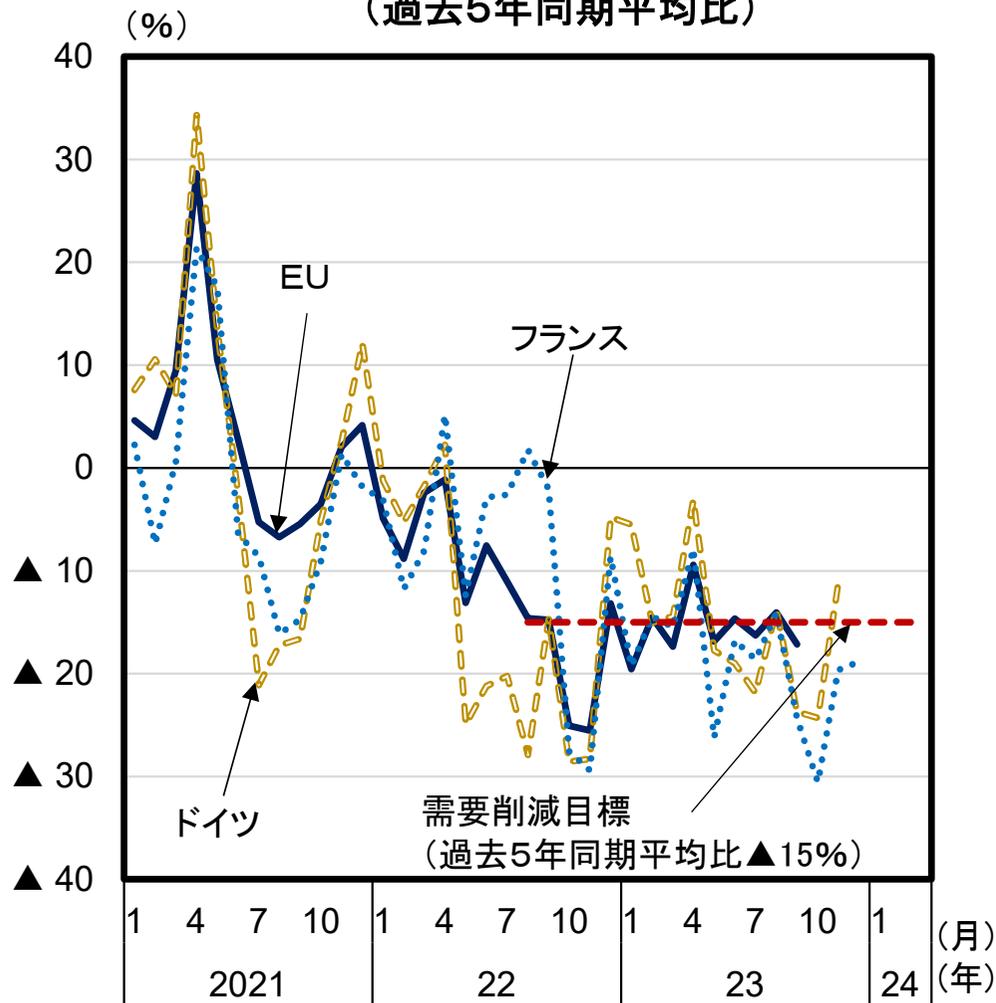


(備考) Eurostatデータより作成。自営業者は除く。

エネルギーの確保

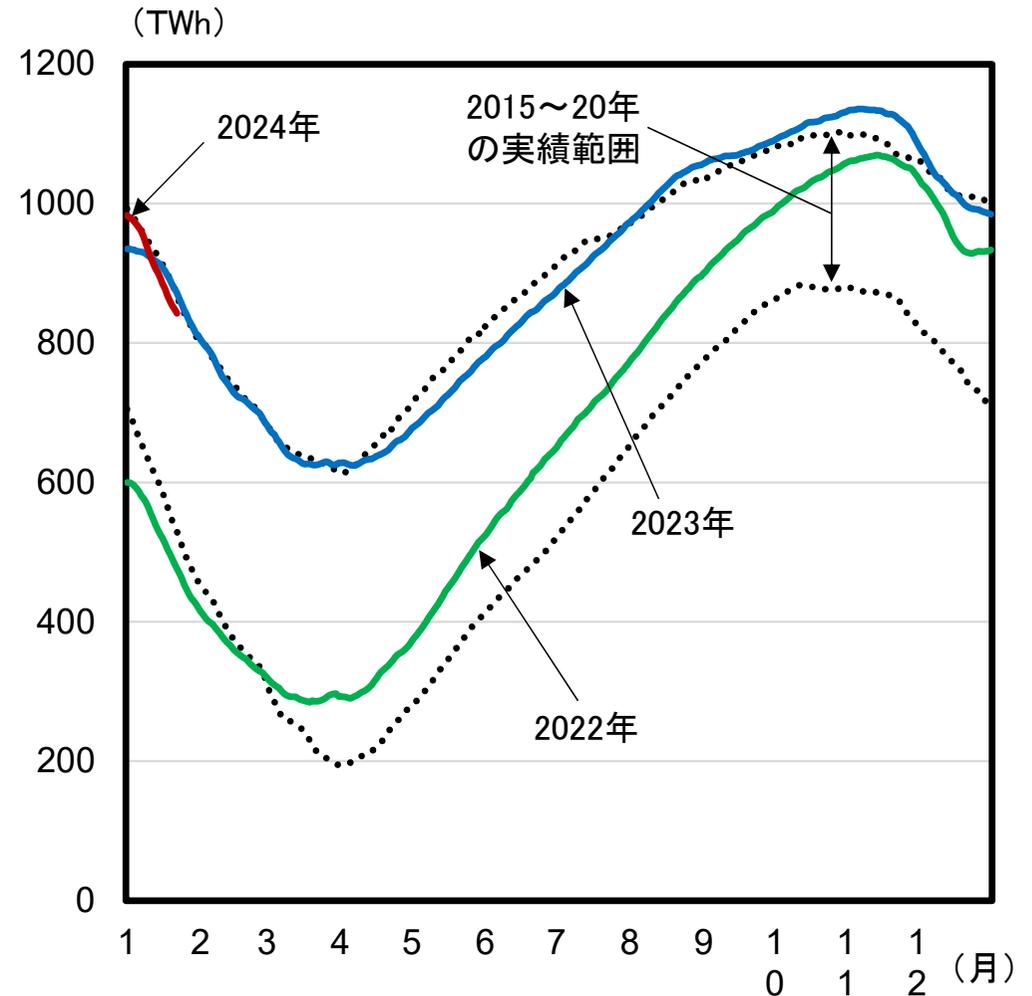
- EUにおいては、ロシア産化石燃料への依存解消を進めつつ、エネルギー安定供給確保のために、天然ガス消費量の削減を進めてきた(努力目標は過去5年間の同期平均比▲15%)。
- あわせて、天然ガスの備蓄も進められてきており、貯蔵レベルは、危機前の実績範囲と比較して高い水準を維持、今冬(2023年~24年)も前年と同程度の水準を確保。

EU:天然ガス消費 (過去5年同期平均比)



(備考) Eurostatデータより作成。

EU:天然ガス貯蔵レベル



(備考) AGSIより作成。2024年は1月22日まで。